

155

国鉄クハ68形 制御車 (半流)



板状未塗装キット・旧型国電シリーズ

別売アイテム

- 台車 #5024:TR23
- スノーブロー #62
- 排障器 #62-1
- 車両マーク #6301

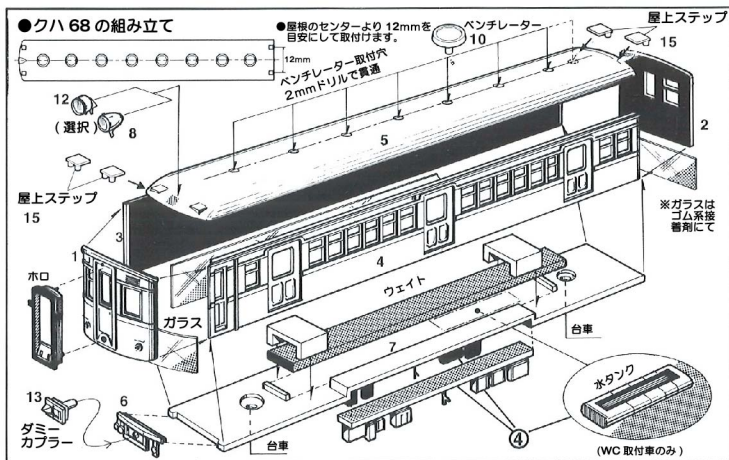
カラーガイド

- ボディ ⑤+⑦/①+⑫ 等※
- Hゴム ⑨
- 屋根 ⑤
- 屋上機器 ⑨
- 床下 ⑩

※ボディの塗色は「車両ガイド」項もご参照ください。

ドリル刃ガイド

2.0mm: ペンチレーター取付穴
※数字は直径です。



ボディの組み立て

前後蓋板①②、左右側板③④、屋根板⑤をすき間の出来ない様注意して組み立て、全体を塗装後に裏から窓ガラスを接着します。床板は上面に鉄板のウェイトを2箇のウェイト止めで固定し、下面には床下器具ユニットを左右にふり分けて接着します。(WC取付車を想定する人は更に中央うしろ寄りに水タンクを接着しておいてください。)

屋根板には屋上ステップ⑩を前後2箇所ずつ、ヘッドライトは⑨又は⑧のうち好みの方を取り付けてください。ペンチレーターは実車では更新年度やその後の改造で7~8箇所と数が異なり、取付位置にも若干のバリエーションがあるようなので、必ずしも裏面のガイド穴にこだわらずに写真等で研究して好みのタイプを決定し取り付けてください。

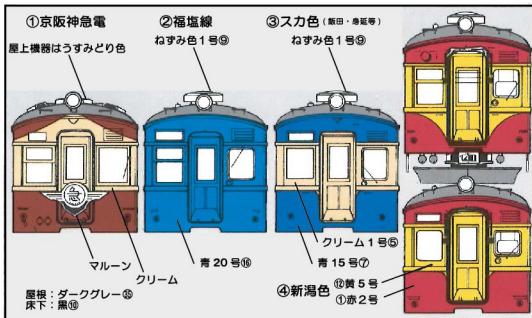
ダミカブラ⑬及び銅受け⑬は、その車両がいつも編成の先頭に立つ事が決まっている場合にのみ使用し、その場合先頭側の台車のカブラはポケット先頭からカットして、その後別売の排障器、スノーブロー等を取り付けておくためです。

車両ガイド

51系は3扉セミクロスシートの中距離型電車で、クモハ51・クモハ54・クハ68等からなる系列です。本製品は扉間6枚窓の車体を持つグループで、なかでもクハ68は少数派ですが、飯田線でも遅くまで活躍したので懐かしく思うファンも多いことと思います。

初期の塗装はもちろんぶどう色2号②ですが、更新前において通風器などの屋上機器はうすみどり色に塗られていたのが特筆されます。クハ68の一部は京阪神急電用にクリームとマルーンに塗られたほかは、地方転出までぶどう色を保ちました。右のイラストに代表的な塗装パターンを示しましたが、ほかには青22号⑥(大系線)や黄緑6号⑬などの例もみられました。

【丸囲み数字はGMカラーNo.】



編成例

●丸車の原型クハ68を一端に連結した新潟ローカル70系4連(新潟色・1970年代前半)

